令和8年1月1日発行
王滝村教育委員会
村民図書館
TEL：48－2134

図書館だより 1月号

図書館利用時間：平日（開校日）午前9時～午後4時

1月の「読書会」は、お休みです。次回は2月12日(木)13時30分からです。

今月の『図書館だより』は、昨年12月に行われた読書会に出席した人の中から2名の方による本の紹介です。お勧めの本にまつわる考えを寄せてくださいました。

●『人は自然の一部である』作者・渋沢寿一（地湧の杜）を読んで　（S・G）

自然豊かな王滝村で暮らす私達。たとえば、60年前の王滝村では、どんな生活をしていたんだろう。今は便利になったよね。だけど、人口はすごく減ってしまったな…。

林業が盛んな時もあった。森林鉄道が山奥まで張り巡らされ、でも、いつしか道路に変わり…。ダムができて、スキー場には、たくさんの人が来て…。大きな地震があったり、御嶽山が噴火したり…。いろんな事があったよね。

『人は自然の一部である』この本を読んで、しみじみ思い返しました。

森に囲まれた王滝村に住んでいるからこそ、過ぎ去って行く時の流れの中で、便利さと引き換えに忘れ去られていく人と自然とのかかわりをもう一度考えてみたくなる本です。

●『コンビニ・・』から繋がった『宙ごはん』（小川・植木雅史）

『コンビニ人間』作者・村田沙耶香（文春文庫）を読み、同じ「コンビニ」という言葉の付いた『コンビニ兄弟』作者・町田そのこ（新潮文庫）に手が伸びました。そして、作者の町田そのこさん繋がりで『宙ごはん』作者・町田そのこ（小学館）に行き着きました。

『宙ごはん』では、保育園児のわたしである宙（そら）と宙のお母さん（生みの親）とママ（育ての親）の3人を軸に、宙の成長の節々に食するパンケーキを通して家族の役割に戸惑う人々の姿が描かれます。

「お母さんになれない」「ママのままでいいのか」「ただただ甘えたいのに甘えられないわたし」など、家族や世間の中で役割を果たせない（演じられない）葛藤や生きづらさが次から次に現れます。読み手にとっては、現れてくる人々の背景をどこまで想像できるのかが問われる感があります。

物語の世界をどう読み取るかは、その読む人によって変わり、また、その読む時によって変わります。『宙ごはん』の中には、人が生きて行くには「おいしいものを食べる方法を知っていること」「できないことわからないことは『助けて』と声に出して言えるか」「自分の話を聴いてくれる人がどれだけいるか」「自分でどれだけじっくり考えることができるか」など、登場人物の話の端々から大切なものが見えてきます。

このトシになった今、それらの人びとを己に照らし合わせて、少し距離を置いた視点で自分自身を見返せる良いチャンスになりました。

文庫本『宙ごはん』には、大切な人を失った人々との関わりの中で成長していく宙ちゃんを見つめた掌編（短編小説より短いもの）が二つ収められていて、ホッとあたたかい気持ちになります。

また、この文庫本には解説と掌編のおまけがついていてうれしいですね。